

新歴史の見える風景

石丸城(石盛城)跡

福井市石盛三丁目六〇一

足羽七城の戦いで
新田軍の本陣となった

建武5年は、『太平記』で知られる

「藤島の戦い(足羽七城の戦い)」が
越前中心部で展開された年である。

前年、敵の失策で府中(武生)を占

拠した新田軍(南軍)は勢いを増し、

北軍の越前守護足利(斯波)高経は、

九頭竜川と日野川が合流する要害の

場所にある黒丸城(福井市)など、

足羽七城が構築された九頭竜川南岸

一帯に封じ込められた形となった。

足羽七城は「七つの城」という意

味ではなく、複数の城を「七城」と

形容したもので、十数個の城砦が互

いに連携し合う「連環城」として機

能し、攻撃・防御が一体化した巧妙

な構造であったため、新田軍の攻略

は難航し戦況は膠着状態に陥った。

そんな中、越後の大井田氏経が二万

余の兵を率いて越中、加賀の北軍を

突破し、越前に進軍。義貞軍は越後

軍を加え三万に膨れ上がり、北軍を

圧倒する戦力を得た。義貞は九頭竜

川北側の石丸城に本陣を構え、足羽

城跡公園に
設置された解説板

石丸城跡に整備された石丸城公園

MAP



七城の攻略を指揮した。

7月、機が熟したことを見て取った

義貞は、総攻撃の準備に取りかかり、

北軍の諸城に対して、向かい城を築き、

連携を断断し、諸将を配置し、守護高

経の居城黒丸城に対する向かい城、灯

明寺城には自ら出陣し、陣頭指揮を

とった。

義貞の作戦としては、この地域の東

方に位置する藤島城などを先に落と

し、順次、西に移動し、黒丸城周辺の

城も落とし、最後に四方から黒丸城を

囲み、落城に追い込む計画だったと考

えられる。

しかし、最初の攻撃目標とした藤島

城などが、新田軍の執拗な攻撃を跳ね

返したため、なかなか落城の報せがこ

ず、義貞は、ついに五十余騎だけを率

いて、藤島城へ偵察と督戦のため灯明

寺城を出たが、途中の灯明寺で、北

軍に遭遇した。

黒丸城の高経のもとに、「藤島城危

うし」の伝令が届き、高経は重臣の細

川出羽守に救援する兵三百を割き、黒

丸城から出撃させていたのである。

両軍の遭遇は、全くの偶然であった

が、ただ、北軍は救援のため弓矢の備

えも十分であったのに対し、義貞は偵

察のため楯の一つも無かった。

このため義貞主従はたちまち囲ま

れ、矢を浴びて次々と倒れ、義貞も眉

間に矢を受け、その場で自害した。建

武5年閏7月2日のことであった。

総大将を失った新田軍三万は一夜に

して崩壊、雲散霧消し、残存兵は、わ

ずか二千で、本陣・石丸城を守備して

いた弟の脇屋義助は府中へ撤退を余儀

なくされた。

福井市立森田中学校近くの発掘調査

では、石丸城堀跡や建物跡などが見つ

かっており、現在は石丸城公園として

整備されている。(文 奥山 秀範)



高経ゆかりの黒丸城城址碑



灯明寺跡の新田塚